

科目名 エコツーリズム・グリーンツーリズム特論
Title Advanced Study of Ecotourism and Green Tourism
科目区分 M 文化・観光を主とする研究領域

教授 片岡 美喜 (カタオカ ミキ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1・2

単位区分

単位数
2

開講時期
後期

目的

自律的かつ内発的な地域発展を、観光産業の推進からアプローチする際に、従来型の外部資本を投じた観光開発と事業展開のあり方では、地域資源の保護や住民の生活基盤の保持などが難しい状況が指摘されている。また、観光産業の進展は「観光公害」「オーバーユース」などの問題が生じる場合もあり、地域社会におけるあり方が問われる状況も見られている。とりわけ、自然保護を重視した観光活動や、農業・農村における観光においては、保護と活用をいかにコントロールしてゆくの、住民生活と観光をいかに並存して行くのかなどの課題に直面している。こうした背景をふまえ本講義では、エコツーリズムおよびグリーンツーリズムの観点からみた観光政策や地域実践のあり方について検討するものである。

達成目標

- ・ エコツーリズム、グリーンツーリズムに関して学術分野及び実態面での諸相を把握する。
- ・ 農業・農村の捉え方、観光活用に関する基本的な概念を把握する。
- ・ 地域における活動促進に必要な条件について検討できる。
- ・ 当該分野の研究実施にあたる基礎的な認識を獲得する。

スケジュール

- 第1回 講義ガイダンス 講義の概説、進め方、成績評価方法等の説明
- 第2回 観光の「もうひとつ」のあり方(1) 課題背景の把握、観光に関する問題
- 第3回 観光の「もうひとつ」のあり方(2) オルタナティブツーリズム・ニューツーリズムの登場など
- 第4回 ディスカッション(1) 受講生による事例報告をもとに討論を行う
- 第5回 エコツーリズムとグリーンツーリズム(1) 各用語の定義、背景
- 第6回 エコツーリズムとグリーンツーリズム(2) 海外の状況
- 第7回 ディスカッション(2) 受講生による報告をもとにした討論
- 第8回 グリーンツーリズムと地域実践(1) 日本における施策と地域実践の状況
- 第9回 グリーンツーリズムと地域実践(2) 統計的な把握、農業経営との関連性
- 第10回 ディスカッション(3) 受講生による報告をもとにした討論
- 第11回 エコツーリズムと地域・自然(1) エコツーリズム運営にまつわる現状把握、ルール策定など
- 第12回 エコツーリズムと地域・自然(2)
- 第13回 ディスカッション(4) 受講生による報告をもとにした討論
- 第14回 地域振興と観光振興のあり方に関する理論的検討 当該分野における理論的枠組みの把握
- 第15回 総括と展望

教科書・参考文献

教科書 講義中に指示する。

参考書 山崎光博他『グリーン・ツーリズム』家の光出版(1993)
真板昭夫他『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社(2011)

授業外での学習

講義中に提示した文献をもとに予習・復習を行うことに加え、関連文献を読み進めて専門への理解を進めること。

評価方法

講義内課題70%、期末課題30%の割合にて評価を行う。

履修上の注意

本講義は遠隔講義で実施します。
履修者と双方向の講義を行うことを心がけ、応用的な学びを目指します。議論の時間や、テーマに沿った報告の時間なども設けたいと思っています。

科目名 観光経営特論
Title Advanced Study of Tourism Management
科目区分 M 文化・観光を主とする研究領域

担当教員
教授 井門 隆夫 (イカド タカオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1・2	選択	2	前期

目的

観光産業の中でも地方における「宿泊業」(主として旅館業)を例に、経営の諸問題とその解決策について考察する。日本の宿泊業でも都市部の宿泊業(ホテルやゲストハウス等の簡易宿所)は増加が続いている一方、旅館業に代表される地方の宿泊業は減少の一途をたどっている。本特論では、日本の経済・観光・宿泊に関する現状を把握するとともに、受講生が毎回出される「お題」をもとに自らも市場を考察し、ミニプレゼンをしていただくことにより、多面的な理解と発表能力の向上にもつなげていく。

達成目標

- ① 地方における宿泊業経営の問題点を把握し、その要因を掘り下げて考える力を養う。
- ② 財務諸表をはじめ経営に関するデータを探索・比較し、経営分析ができる能力を養う。
- ③ 宿泊業経営における現実に即した問題解決能力を養う。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス ~講義の進め方、時代変化の重要ファクターについて
- 第2回 ポストコロナにおける政策と宿泊業の重要性
- 第3回 受講生ミニプレゼンテーション①
- 第4回 地方宿泊業を取り巻く3つの課題
- 第5回 受講生ミニプレゼンテーション②
- 第6回 小規模宿泊業の人材不足と労働生産性
- 第7回 受講生ミニプレゼンテーション③
- 第8回 宿泊業の事業承継やサービスモデル
- 第9回 受講生ミニプレゼンテーション④
- 第10回 地方宿泊業の需要不足と新業態
- 第11回 受講生ミニプレゼンテーション⑤
- 第12回 日本における観光政策の課題
- 第13回 受講生ミニプレゼンテーション⑥
- 第14回 受講生の専攻テーマをもとにした討議
- 第15回 ふりかえりとまとめ

教科書・参考文献

教科書 講義資料は毎回投影または配布し、講義終了後にはポータルに保存する。

参考書 適宜紹介する。

授業外での学習

本特論では、可能な限り実際のサービスを経験・観察して提言を作成することも期待されます。

評価方法

講義への積極的な参加・発言 40%
宿泊業界に関する問題提起・解決策に関するレポート 60%

履修上の注意

特になし。

科目名 観光政策特論
Title Advanced Study of Tourism Policy
科目区分 M 文化・観光を主とする研究領域

担当教員
准教授 安田 慎 (ヤスダ シン)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1・2	選択	2	後期

目的

観光の発展にともない、観光振興・地域振興の文脈で観光政策の持つ役割は増しているにも関わらず、観光政策研究はそれらのニーズに対して必ずしも理論化・モデル化に耐えられるだけのものとはなっていない。そこで本講義では、観光学におけるさまざまな議論を概観しながら、観光政策論の持つ可能性について、受講生とともに探っていききたい。さらに、そのなかから、受講者自身が考える「適切な」観光政策の在り方について、議論しながら探っていききたい。

達成目標

- (1) 観光政策に関わる基本的構図について説明することができる。
- (2) 観光政策に関わる理論やモデルを用いて、具体的な観光政策について説明することができる。
- (3) 観光政策研究を用いて、「適切な観光政策」について提言することができる。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション：観光政策とは何か？
- 第2回 観光政策の歴史を探る：観光政策史
- 第3回 観光地の発展と衰退を考える：観光地ライフサイクル論
- 第4回 観光政策マーケティング：情報の非対称性と経験経済論
- 第5回 地域資源の発展可能性をはかる：観光資源分析と空間分析、キャリング・キャパシティ論
- 第6回 来てほしい顧客像を考える：観光心理学と観光プロモーション
- 第7回 観光地をブランディングする：観光地計画論とブランド論
- 第8回 どの組織が適切なのか：政策過程論からソーシャル・イノベーション論・NPO論へ
- 第9回 観光政策をどう振り返るか：観光統計とその活用をめぐる
- 第10回 「地域住民」はどこにいるのか：社会的ネットワーク論とメンバーシップ論
- 第11回 税金は誰が払うべきなのか：観光の社会的費用論
- 第12回 観光の非経済的利益を考える：社会交換理論と愛着をめぐる
- 第13回 文化資源を保全する・育成する：文化の商品化と文化の客体化
- 第14回 持続可能な観光を目指す：持続可能な観光指標の変遷をめぐる
- 第15回 ラウンドテーブル：観光政策を考える

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。使用文献については事前に配布する。

参考書 演習において必要に応じて提示する。

授業外での学習

- ・ 観光全般に係るニュースや記事を把握し、注目点や疑問点を整理しておくこと。
- ・ 講義外での事前課題・事後課題への取組が、講義内の議論の質を左右します。積極的な関与を。
- ・ 時間のある時にさまざまな観光地に訪れ、フィールドワークをして、その内容をまとめてみて下さい。

評価方法

- ・ 講義内での議論、ディスカッション：50%
- ・ 事後の小レポート：50%

履修上の注意

本講義は反転授業（フリップド・クラスルーム）を採用する。受講者は事前に課題論文を購読したうえで、講義ではその内容を踏まえた議論を行ったうえで、事後課題（小レポート）に取り組んでもらう。

科目名 国際観光特論
Title Advanced Study of Internatinal Tourism
科目区分 M 文化・観光を主とする研究領域

教授 丸山 奈穂 (マルヤマ ナホ)
担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1・2 単位区分 単位数 2 開講時期 前期

目的

グローバル化が進み、世界各地を観光者が訪れるようになったことで、観光が地域社会や観光者自身に与える影響も多岐に渡る。それらの影響は、観光だけによるものもあれば、その他の原因と複雑に絡み合っている場合もある。本講義では「観光は社会を映す鏡である」という考えに基づいて、観光がどのように社会の枠組みの中で成り立ち、影響を受けているか、与えているかを探る。また、テロ、パンデミックなどによる観光への影響をビジネスの面のみならず、社会的、人類学的な面からも考える。

達成目標

- (1) 観光の基本構造を説明することができる
- (2) 観光に関わる理論に基づいて、観光現象を説明することができる
- (3) 今後の観光の在り方について理論および先行事例に基づいて考えることができる

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション：観光学とは何か（社会学、人類学の側面から）
- 第2回 観光研究の歴史的流れを探る
- 第3回 観光とエスニシティ 1：Tourism Representation(表象)とエスニシティ 1
- 第4回 観光とエスニシティ 2：Tourism Representation(表象)とエスニシティ 2
- 第5回 観光とエスニシティ 3：民族関係の歴史と観光 1
- 第6回 観光とエスニシティ 4：民族関係の歴史と観光 2
- 第7回 観光とエスニシティ 5：現在の民族関係と観光 1
- 第8回 観光とエスニシティ 6：現在の民族関係と観光 2
- 第9回 観光とジェンダー 1：女性の表象と観光 1
- 第10回 観光とジェンダー 2：女性の表象と観光 2
- 第11回 観光とジェンダー 3：女性のエンパワーメントと観光 1
- 第12回 観光とジェンダー 4：女性のエンパワーメントと観光 2
- 第13回 観光と危機 1：観光産業と危機
- 第14回 観光と危機 2：社会的集団の対立と観光
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

- 教科書 Tourists and Tourism: a Reader (Sharon Bohn Gmelch、Waveland Press)
その他使用文献については適宜指示する。
- 参考書 必要に応じて提示する

授業外での学習

観光全般にかかわる時事ニュースを把握すること

評価方法

- 講義内での発表：25%
講義内での参画：25%
レポート1&2：50%

履修上の注意

本講義では、受講者は必ず事前に課題論文を購読した上で、その内容を踏まえた議論を行う。課題論文は英語で書かれたものを使用するが多い。

科目名 地域史特論
Title Advanced Study of Regional History
科目区分 M 文化・観光を主とする研究領域

教授 西沢 淳男 (ニシザワ アツオ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1・2

単位区分

単位数
2

開講時期
後期

目的

地域史は、一つの地域を多角的に考察し、民衆史や生活史のなかから、これから取り組んで行かなくてはならない地域の課題を解明していく研究です。地域の歴史や文化・現状を理解することは、今日地域を取り巻く少子高齢化・過疎化・市町村合併・地方分権といった諸問題、また地域興しや福祉を考える上でも有用です。本講義では、前近代における地域社会＝「村」における生活・文化を現代とも対比しながら考えていきます。内容の説明上古文書及び史料を提示することもあります。

達成目標

本講義では前近代の地域社会(村)とはどのようなものかを理解することにより、現代の地域の課題解決のヒントを見つけていくことが目標である。

スケジュール

第1回	ガイダンス	受講上の注意やスケジュールの打合せ、テキストの決定
第2回	地域史とはなにか	地域概念と研究方法論(1)
第3回	地域史研究方法論	研究方法(2)
第4回	村と農村(1)	
第5回	村と農村(2)	
第6回	村と農村(3)	
第7回	村と農村(4)	
第8回	村と家の誕生(1)	
第9回	村と家の誕生(2)	
第10回	村と家の誕生(3)	
第11回	村と家の誕生(4)	
第12回	子供から若者へ	
第13回	結婚と離婚	
第14回	老いと相続	
第15回	地域史研究の総括	

教科書・参考文献

教科書 原則はプリント配布である。テキストを使用する場合は、受講者と相談して決める。

参考書 必要に応じて、適宜紹介する。

授業外での学習

各回におけるテーマにおける問題関心を持ち、必要事項や用語は事前に調べておくと共に、講義内容から現代的な問題事項とどのようにリンクしてくるのかを復習し定着を図ること。

評価方法

討論参加状況による平常点(100%)。なお、正当な理由のない欠席や討論に参加の義務を果たしていない場合は、大幅な減点となることを明記しておく。

履修上の注意

受講者との相談の上、講義内容が一部変更があることもある。本講義は主として村を中心としての講義であるので、併せて都市部を主とする「地域文化史特論」も受講されたい。留学生が受講する場合、授業内容・進度は配慮したものとなる。授業は対面を予定していますが、受講者と相談の上オンラインで行う場合もあります。

科目名 地域文化史特論
Title Advanced Study of History of Regional Culture
科目区分 M 文化・観光を主とする研究領域

教授 西沢 淳男 (ニシザワ アツオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1・2

単位区分

単位数
2

開講時期
前期

目的

前近代(江戸社会)において儀礼・儀式が政治的・社会的にどのような意味を有するのか、また儀礼と表裏一体をなす贈答行為の背景にある社会・文化について考えてみたい。
具体的には、主として庶民の年中行事や通過儀礼を日常生活における衣食住も含め様々紹介しながら、地域社会における社交文化や贈答・互酬習俗、生活文化の社会的意義について述べる。

達成目標

現代の地域に残る社交文化の前提として、前近代における生活文化や地域文化・伝統について理解することが目標である。

スケジュール

第1回	開講ガイダンス	
第2回	交際と社交文化	
第3回	賄賂と贈答	
第4回	儀礼と贈答 (1)	葬礼準備と葬儀用衣装
第5回	儀礼と贈答 (2)	追善法要
第6回	儀礼と贈答 (3)	遺物進上
第7回	儀礼と贈答 (4)	婚礼と贈答
第8回	儀礼と贈答 (5)	婿養子婚と贈答
第9回	儀礼と贈答 (6)	生前贈与と衣裳
第10回	儀礼と贈答 (7)	産育習俗と贈答その1
第11回	儀礼と贈答 (8)	産育習俗と贈答その2
第12回	儀礼と贈答 (9)	産育習俗と贈答その3
第13回	受講生の報告	出身地の儀礼・贈答文化について
第14回	受講生の報告	出身地の儀礼・贈答文化について
第15回	地域文化史のまとめ	

教科書・参考文献

教科書 適宜プリントを配布する。

参考書 必要に応じて講義中に提示する。

授業外での学習

各回におけるテーマにおける問題関心を持ち、必要事項や用語は事前に調べておくと共に、講義内容から現代的な問題事項とどのようにリンクしてくるのかを復習し定着を図ること。

評価方法

討論参加状況(80%)及び報告発表(20%)による平常点。なお、正当な理由のない欠席や報告の義務を果たしていない場合は、大幅な減点となることを明記しておく。

履修上の注意

受講者との相談の上、講義内容が一部変更があることもある。本講義は主として畿内・都市部を中心としての講義であるので、併せて村を主とする「地域史特論」も受講されたい。
留学生が受講する場合、授業内容・進度は配慮したものとなる。授業は対面を予定しているが、受講者と相談の上オンラインで実施する場合がある。

科目名 日本文化特論
Title Advanced Study of Japanese Culture
科目区分 M 文化・観光を主とする研究領域

担当教員
名誉教授 千葉 貢 (チバ ミツギ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1・2		2	前期

目的

文化は各国、各地域の風土や気候、条件などのもとに発生し洗練されながら根ざし、息づいてきた暮らしの古典である。本講では日本文化と言われる事象や事例を繙くとともに、国民総体の学問であると位置づけ、その特徴や特質、背景などを追求し、文化の普遍性について講じたい。文化と総称される各事象や具体的な事例を培い、醸したり紡いだりしながら、暮らしとともに継承されてきた生業との関わり、包まれている情意なども探究し、その要因を含め文化の現代的な意味や効用などについても考察する。文化の位相を明確にする意義は、人間とし性と言われる資質の一端を構成し、暮らしをも支えている。日常的なあまり看過しがちであるが、息づいている実態を自覚するためにも、様々な事象や事例を抽出し、具体的に考察を加え、論証に挑むことを奨励する。

達成目標

各種の事象や事例を通じて日本文化の実態や特色、及び歴史的な背景、社会的な意味などについての、理解の向上を促すことが本講の目標である。講義は、日々様々な「文化」と関わりながら暮らしている事実を再認識する機会であり、文化に含まれている歴史や社会の変遷、人々の思いに寄せ、温故知新の真意について考察し、新たな自説を創出する。また、変化の著しい昨今のなかで、「近代化」との兼ね合いについても考察する。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション - - 講義の概要や目的、評価方法などの説明、受講上の注意など
- 第2回 “眺め”の文化 - - 間をとる、間抜け、行間を読む、詩歌の“間”
- 第3回 “擬き”の文化 - - 見立てる、見なす、真似る、~のような、触発、混淆、再生
- 第4回 意匠の文化 - - 形態の美、色彩、見映え、細工、伝承、徒弟制(インターンシップ)
- 第5回 身体技法(加工、感覚) - - 手振り身振りの仕草、化粧、整形、入れ墨、五感
- 第6回 曲線(美)の文化 - - 山なみ、池泉回遊式庭園、床の間、床柱、欄間
- 第7回 言葉の文化(1) - - 言霊信仰、忌み言葉、隠語、言い換え、前置き
- 第8回 言葉の文化(2) - - 曖昧な表現、断定を避ける、五感に基づく表現、共感覚表現
- 第9回 “仕切り”の文化 - - 結び目、敷居、衝立(ついたて)、屏風、境界、通過儀礼
- 第10回 禁忌・俗信の文化 - - 見るな、食べるな、縁起がいい(悪い)、お日柄、お神籤
- 第11回 農耕・共同体の文化 - - 結び、井戸端会議、寄り合い、無尽、道普請、民間伝承
- 第12回 命名の文化 - - 幼名、芸名、筆名、あだ名、四股名、屋号、匿名という名
- 第13回 女装の文化 - - 女装コンテスト、女心のうた、精神的な女、ブラジャーする男
- 第14回 食文化 - - 粒食と粉食、ちまき、餅、郷土食(料理)、食感(状態副詞の多様)
- 第15回 日本文化と「近代化」、その生態-相克、乖離、衝突、融合、折衷、陥穽、融合、混淆、再生など

教科書・参考文献

教科書 指定しません。

参考書 講義の項目に応じて適宜に紹介します。

授業外での学習

必要に応じて配付したプリント(文章もの)は必ず通読し、意見や感想、質問事項などをメモしておくよう心がけること。また、設問事項や問題文を記載した自家製のプリントには、それぞれ解答を記入、あるいは記述しておくよう心がけること。さらには、スケジュールに掲げた各種の事項についての下調べも怠らないこと。

評価方法

受講の状況(質疑応答、意見交換など30%)、レポートの内容や形式(70%)などに基づいて総合的に判定し、最終的な評価(評点)を行います。

履修上の注意

日常的にして身近に存在する「日本文化」の事象や事例を認識し、レポートの作成に心がけて下さい。また、学内外で開催される講演会や研究会、学会などにも積極的に参加して見聞を広め、発表(口頭、論文)にも挑戦して下さい。

科目名 文化人類学特論
Title Advanced Study of Cultural Anthropology
科目区分 M 文化・観光を主とする研究領域

担当教員
教授 小牧 幸代 (コマキ サチヨ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1・2		2	前期

目的

文化人類学とは、世界の諸民族・諸社会における「文化」のあり方を調査し、比較分析することで、究極的には「人間とは何か」という問いに答えを与えようとする学問である。人類学者は、特定の諸民族・諸社会に特徴的な行動様式、思考様式、生活様式や、諸民族・諸社会の間の文化をめぐる多様性や個別性、普遍性や共通性の背景を明らかにしようとしてきた。ところが、昨今では、文化の概念枠組み自体が揺らぎはじめ、伝統的だとされてきた「純粋で真正な文化」の存在が疑問視され、文化が本来的に「雑多で混交的」であり、「歴史的に構築されてきたもの」であることが明らかにされている。本講義では、文化をめぐる理論を学ぶことで、世界各地の文化 (= 他文化) と身近な事例 (= 自文化) を比較する際の問題点と、その解決策につながるきっかけを考える。

達成目標

最近のバラエティ番組では、しばしば世界の「奇祭」が紹介される。それらは驚きや笑いの対象となることが多いが、本当に私たちには理解できないカテゴリーの祭りなのか。社会的・歴史的な背景や前後の脈絡は、正当に紹介されているだろうか。本講義の達成目標は、文化に関する理論を学ぶことで、「他文化 / 自文化」を意識化する「時間」「場所」「状況」に自ら気づけるようになることである。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス～文化人類学の学問領域、異文化理解、他文化と自文化、文化の比較とその困難
- 第2回 人類学言語～言語と文化、外界の区切り方と語彙、分類と認識・命名
- 第3回 人類学の歴史～イギリスの社会人類学、フランスの民族学、アメリカの総合人類学、日本の文化人類学
- 第4回 帝国主義・植民地主義と人類学～政治と学問の関係、学問の政治性
- 第5回 政治制度・婚姻制度の進化論～社会ダーヴィニズムという疑似科学
- 第6回 政府のない社会の政治～アフリカの部族社会における「分節リネージ・システム」
- 第7回 映画「コイサンマン」が示唆すること
- 第8回 「人種」は存在するか～疑似科学の発達と世界の人種差別
- 第9回 「民族」とは何から～民族の定義、エスニシティの定義、国家と民族の関係
- 第10回 宗教と世界観～葬送儀礼と霊魂観、祭りと地域社会、通過儀礼と年中行事
- 第11回 「宗教の原初形態」に関する諸理論～アニミズム、フェティシズム、トーテミズム、マナイズム
- 第12回 民族誌と文化の表象～オリエンタリズム批判、表象の危機、ポストモダン人類学
- 第13回 博物館とテーマパーク～文化の展示と演出、日本のテーマパーク「外国村」「時代村」の事例分析
- 第14回 文化相対主義・反文化相対主義・反反文化相対主義という理論の社会的・歴史的背景
- 第15回 まとめ～21世紀の多文化主義・多文化共生

教科書・参考文献

教科書 綾部恒雄・桑山敬己編 『よくわかる文化人類学 第2版』 ミネルヴァ書房

参考書 授業中に指示する。

授業外での学習

教科書や参考書を読んで知識の定着を図るとともに、その知識を活用し、常に身近な出来事や現象に関心をもつよう心がけること。そのなかで生まれた疑問は授業中や授業の前後に遠慮なく教員にぶつけてみてください。

評価方法

授業期間中に実施するレポート (50%) 定期試験時のレポート (50%)

履修上の注意

授業で学んだ理論に基づいて、授業期間中にレポートを書く機会が複数回ある。レポートの課題内容は、授業時に指示する。レポートは、次回授業時に提出すること。

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1・2		2	後期

目的

文化政策とは、規制や助成等によって芸術家の表現活動や市民の文化活動の水路付けを行ったり、文化的資源の保護と活用を支えたりする政策のことである。こうした政策は、コンテンツ産業の発展、文化的資源を活用した地域づくりを目指す創造都市論の台頭などにより、近年その意義が一層高まっている。本講義では、地域政策学的観点からみて特に重要と思われる文化政策の諸問題に焦点を当て、主要論文を読み、また具体的な事例を踏まえながら、文化政策の意義と問題、そしてこの対象をとらえるための理論枠組の妥当性について検討していく。主な検討対象は自治体文化政策の諸事例だが、文化政策の構造を体系的に把握するために、国レベルの文化政策の制度等についても適宜説明を行う。また、比較対象としての海外の諸事例も積極的に紹介していく予定である。

達成目標

- ・ 文化政策の体系を理解するだけでなく、その問題点と課題を理解する。
- ・ 理念を政策へと具体化させるプロセスを、文化政策の事例を通じて理解する。
- ・ 市民の主体的文化活動の発展を促進させる方策について考える。

スケジュール

第1回	イントロダクション	講義概要、スケジュール、成績評価方法等
第2回	地域社会と芸術(1)	創造都市論、合意形成をめぐる問題等
第3回	地域社会と芸術(2)	前回講義を踏まえた受講生による事例報告、ディスカッション
第4回	市民の文化活動とその支援(1)	文化協会の現状、オルタナティブな文化活動と政策
第5回	市民の文化活動とその支援(2)	前回講義を踏まえた受講生による事例報告、ディスカッション
第6回	規制・助成・保護(1)	表現の自由と文化事業、助成システムの実際、著作権
第7回	規制・助成・保護(2)	前回講義を踏まえた受講生による事例報告、ディスカッション
第8回	文化施設の設置と運営、事業(1)	指定管理者制度の現状と課題等
第9回	文化施設の設置と運営、事業(2)	前回講義を踏まえた受講生による事例報告、ディスカッション
第10回	条例・計画・予算(1)	条例および計画策定のプロセス等
第11回	条例・計画・予算(2)	前回講義を踏まえた受講生による事例報告、ディスカッション
第12回	文化政策の効果・評価(1)	効果判断の指標、政策評価の妥当性等
第13回	文化政策の効果・評価(2)	前回講義を踏まえた受講生による事例報告、ディスカッション
第14回	文化政策研究の諸学説	研究上の理論枠組の検討
第15回	総括と展望	

教科書・参考文献

教科書 講義中に指示する。

参考書 デイヴィッド・スロスビー『文化政策の経済学』(ミネルヴァ書房、2014年)
 中川幾郎『分権時代の自治体文化政策』(勁草書房、2001)

授業外での学習

文化政策、文化経済学関連の文献を自主的に読み進めるておくこと。

評価方法

受講生の積極的な関与を前提としているため、平常点70%、期末レポート30%の割合で評価を行う。

履修上の注意

インタラクティブな授業運営を心掛け、各テーマに関して、受講生自身が事例を探して報告してもらう時間を設ける。

科目名 法と文化特論
Title Advanced Study of Law and Culture
科目区分 M 文化・観光を主とする研究領域

名譽教授 大河原 眞美 (オオカワラ マミ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
1・2		2	前期

目的

日本ではあまり理解されていないが、アメリカは、実はきわめて宗教色の強い国家である。大統領就任の宣誓も聖書に手を置き誓うことが、政教分離の原則に違反すると考えるアメリカ人は少ない。本特論では、宗教的マイノリティーのアーミッシュを取り上げて、宗教観、法意識、言語運用などから明らかにする。アーミッシュの宗教意識は、ピューリタンの宗教意識に通じるものがあり、アーミッシュは実は極めてアメリカ的な要素をもったマイノリティーであることを強調したい。さらに、その特異な生活様式から過去の遺物のように捉えられることが多いアーミッシュであるが、観光産業における存在感の高さにも触れて、アメリカ社会におけるアーミッシュについて全般的に論じる。

達成目標

アーミッシュの裁判を中心にアメリカ社会の宗教観についての理解を深め、ピューリタンの選民思想、アメリカの見えざる国教、信教の自由、アメリカの政教分離の観点からアメリカ社会への見識を高める。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コロンブス以降のアメリカ
- 第3回 多様な宗主国と宗教
- 第4回 ニューイングランドの植民地とヴァージニア植民地
- 第5回 ピューリタン社会と宗教
- 第6回 アメリカの市民宗教
- 第7回 アーミッシュの起源
- 第8回 アーミッシュの宗教観
- 第9回 信教の自由：教育裁判、馬車裁判、環境裁判
- 第10回 社会的忌避（村八分）：アンドリュー・ヨルダー裁判
- 第11回 アーミッシュをやめること：サミュエル・ホクステトラー裁判
- 第12回 アーミッシュの内輪もめ：サミュエル・マレット裁判
- 第13回 アーミッシュの起業化
- 第14回 観光産業の中のアーミッシュ
- 第15回 まとめ

教科書・参考文献

教科書 特に指定しないが、次回まで読んでくるものを指示する。

参考書 Donald Kraybill et al. (2013) The Amish, The Johns Hopkins University Press.
Donald Kraybill & Steven M. Nolt (1995) Amish Enterprise, The Johns Hopkins University Pres

授業外での学習

次回の特論に関連する項目について、指定した教科書・参考書をよく読んで予習しておくほか、アメリカを始めとする様々な国の信教の自由に関するニュースなどをテレビ、インターネット、新聞からも積極的に情報収集して、知識をさらに深めること。

評価方法

学期末試験（60%）、レポート（20%）、毎回のコメントシート（20%）

履修上の注意

英語の文献も読む。